

# 丸山ダム70周年記念誌



国土交通省中部地方整備局  
木曾川水系ダム統合管理事務所 丸山ダム管理支所  
岐阜県加茂郡八百津町八百津1276-2  
TEL.(0574)43-1108  
FAX.(0574)43-2170

国土交通省 中部地方整備局  
木曾川水系ダム統合管理事務所



# 生まれ変わるダム最後の勇姿 丸山ダムから新丸山ダムへ。



## ■ 諸元と目的

### 木曾川の概要

丸山ダムがある木曾川は、長野県木曾郡木祖村鉢盛山（標高2,446m）を源に長野・岐阜・愛知・三重の4県を経て伊勢湾にいたる、流域面積5,275㎡、幹線流路延長229kmの大河川です。

丸山ダムは、木曾川の河口より約90kmの上流にあり、集水面積は木曾川の流域面積の約半分を占めています。

### ■ 位置等

河川名：木曾川水系 木曾川（河口より約90km地点）

位置：岐阜県可児郡御嵩町小和沢字北浦山（左岸）

岐阜県加茂郡八百津町八百津字安渡（右岸）

### ■ 諸元

形式：重力式コンクリートダム

目的：洪水調節、発電

堤高：98.20m

堤頂長：260.00m

堤堆積：497,000㎡

流域面積：2,409km<sup>2</sup>

湛水面積：2.63km<sup>2</sup>

湛水延長：15,531m

計画高水流量：6,600m<sup>3</sup>/s

計画最大放流量：4,800m<sup>3</sup>/s

洪水調節流量：1,800m<sup>3</sup>/s

### ■ 目的

洪水調節：洪水が発生した際は、放流量が4,800m<sup>3</sup>/s以下になるようダムへ流入する洪水の一部を貯水池に貯めダム下流の洪水被害を防ぎます。

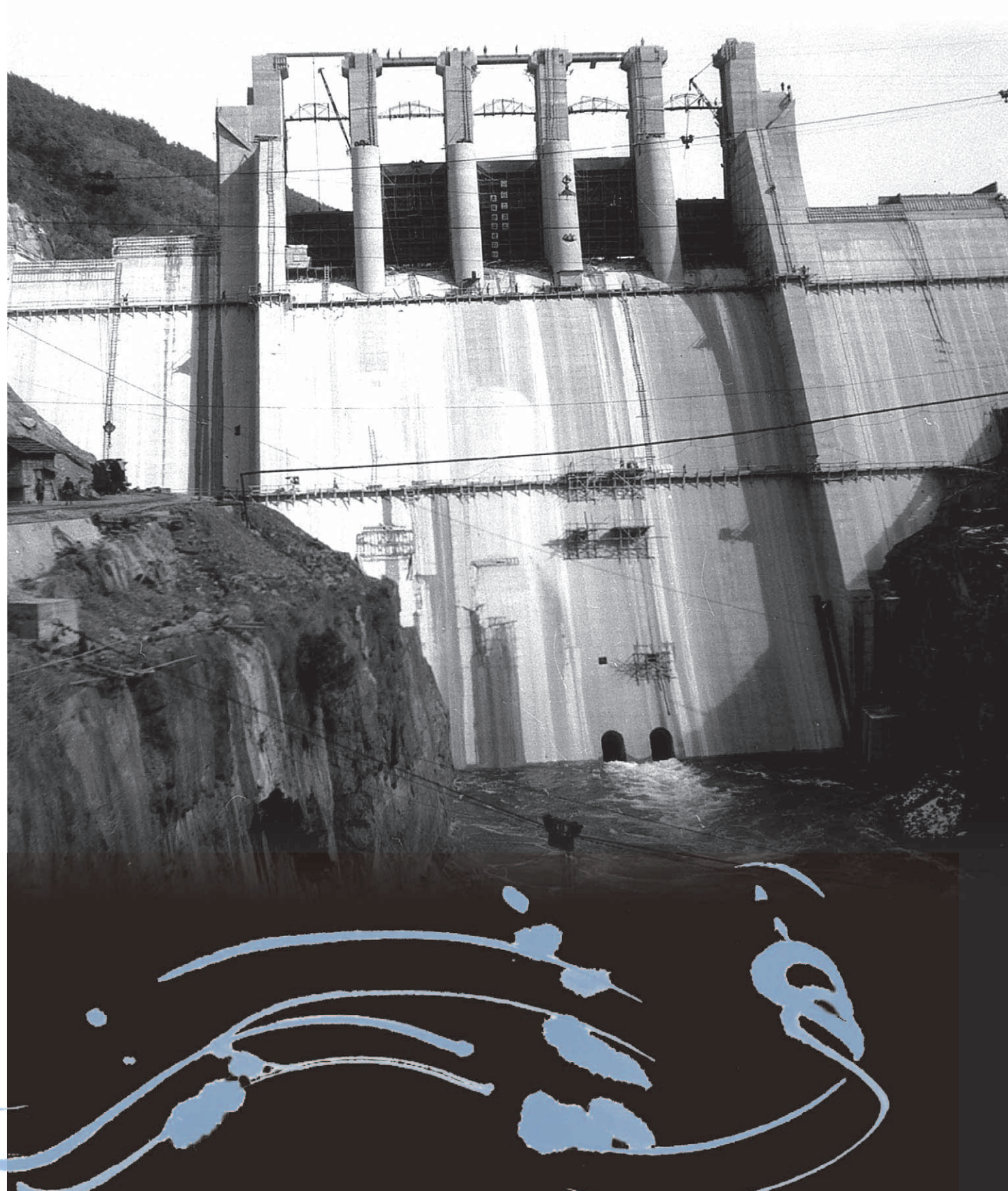
発電：ダムに水を貯め、ダム下流との高低差を利用して発電を行います。



## 様々な紆余曲折を経て1951年9月 丸山ダムの建設工事が始まった。

### 名古屋電灯から大同電力、そして日本発送電へ、 時代に翻弄された丸山ダム建設計画

丸山ダムの建設計画は1916年（大正5年）、名古屋電灯が丸山ダム地点に水路式発電所の建設を計画して、岐阜県に水利利用許可を申請したことから始まっています。この申請は1927年（昭和2年）に許可されましたが、名古屋電灯を合併した大同電力は翌年に起こった昭和恐慌の影響もあり、丸山ダム建設計画を凍結しました。5年後の1933年（昭和8年）になると経済が回復したこともあり、大同電力は凍結していた丸山ダムの建設計画を解除、積極的に進めることを決定しました。こうした中、全国の発送電事業の国家管理を目的とした日本発送電が1939年（昭和14年）に発足、丸山ダムの建設計画もこの新会社に継承されることとなりました。



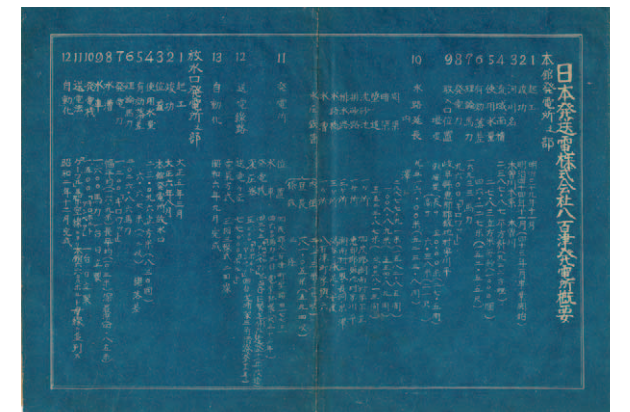
写真提供：(株)安藤ハサマ

### 戦争による工事中止を経て、関西電力による 工事着手。そして、洪水調節や水力発電などを 目的とする多目的ダムへ。

日本発送電による地質調査や用地交渉も順調に進められ、1943年（昭和18年）10月、丸山ダムが着工されました。しかし、戦争継続のため、決戦非常措置要綱が閣議決定されたことから、河川開発などの公共事業はすべて中止されることとなり、丸山ダムの建設工事も1944年（昭和19年）5月に中止されました。

終戦後、深刻となった電力不足解消のため電源開発五ヵ年計画が立案され、1950年（昭和25年）12月には日本発送電に丸山ダム建設命令が発令されました。ところが、日本発送電は戦時体制に協力した独占資本であるとGHQに見なされたことから、1951年（昭和26年）5月には9電力会社に分割・民営化されました。この結果、丸山ダムは関西電力(株)に事業継承されることとなり、同年9月に丸山ダムの建設が再開となり、本格的に工事着手され、1954年（昭和29年）4月には関西電力(株)による発電業務が開始されました。その前年となるとなる1953年（昭和28年）12月には、建設省（現国土交通省）と関西電力(株)との間でダム建造に関する基本協定が締結され、発電の他に「洪水調節」という新たな目的が加わり、同年7月より建設省による洪水調節業務が開始され、昭和31年3月に管理棟設備の完成により、丸山ダムの全工事が完成しました。

2021年（令和3年）からは、新丸山ダム本体着工に伴い、特定多目的ダム法に基づく特定多目的ダムとなりました。特定多目的ダムとは治水・利水等複数の機能を兼備したダムのことで、洪水調節・不特定利水・水力発電・かんがい・上水道・工業用水のいくつか、または全てを兼ね備えています。



日本発送電八百津発電所概要



# 日本初となる重機械化施工を全面的に導入することで 2年7か月という短期間で完成した丸山ダム。

## 人力中心であったダム工事現場に、 重機械を用いた大規模機械化工法を採用

丸山ダムは、日本で初めて全面的な機械化工法によって施工されたダムです。骨材（コンクリートを作る材料となる砂利や砂）運搬や基礎掘削には、8トンダンプトラック24台、パワーショベル3台、ブルドーザー4台が投入されました。また、コンクリート製造・打設（コンクリートを織り交ぜて指定された場所に流し込んで練り固める作業）では、碎石機やセメントを貯蔵するセメントサイロ、バッチャープラント（コンクリートを製造するための大型施設）ケーブルクレーン、ベルトコンベアなどが活躍、それらを大規模プラントとして一体的に運用することで、工事再開からわずか2年7か月という短期間で工事は完了しました。

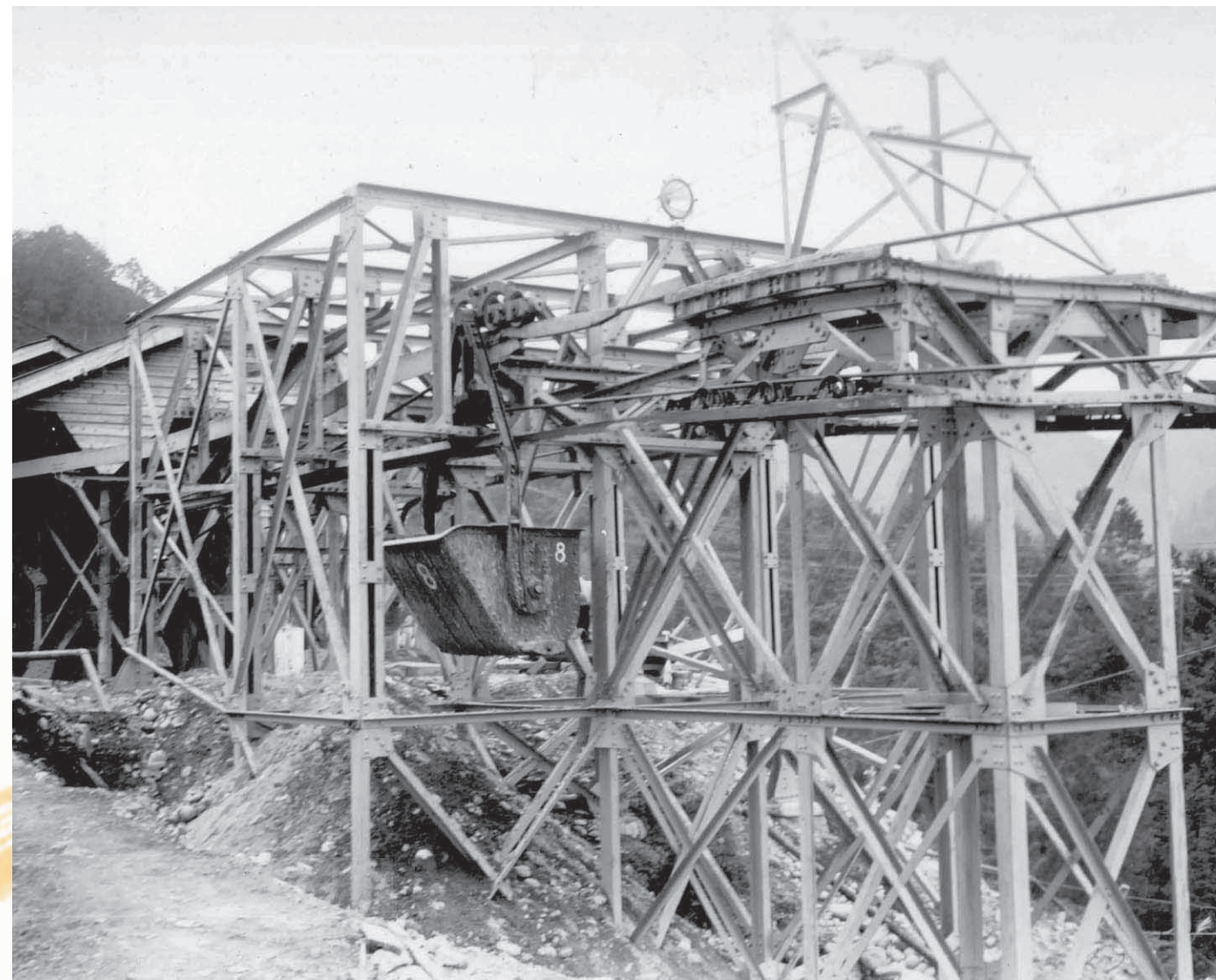
丸山ダムは日本における高さ100m級ダムの第1号であり、更に『日本土木史』では「丸山ダム建設の経験が、ダム施工法に革命をもたらした佐久間ダム（天竜川）建設の足掛かりとなった」とその功績をたたえるなど、丸山ダムは日本ダム史においても特別な存在となっています。



ダンプ5台とパワーショベル、ブルドーザー



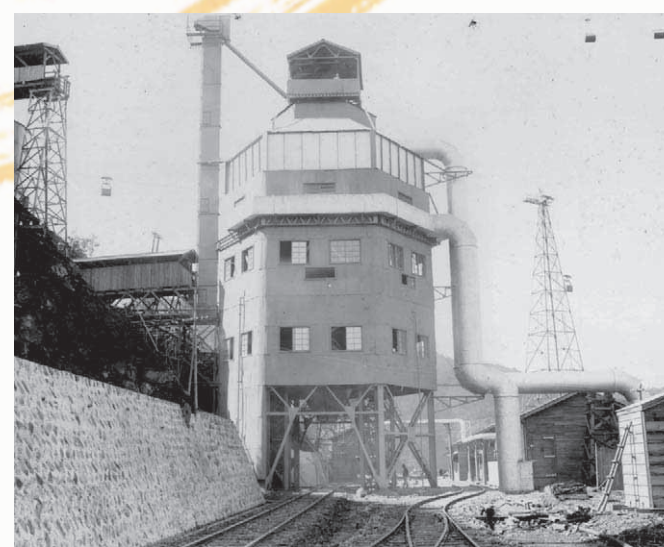
ダンプとパワーショベル



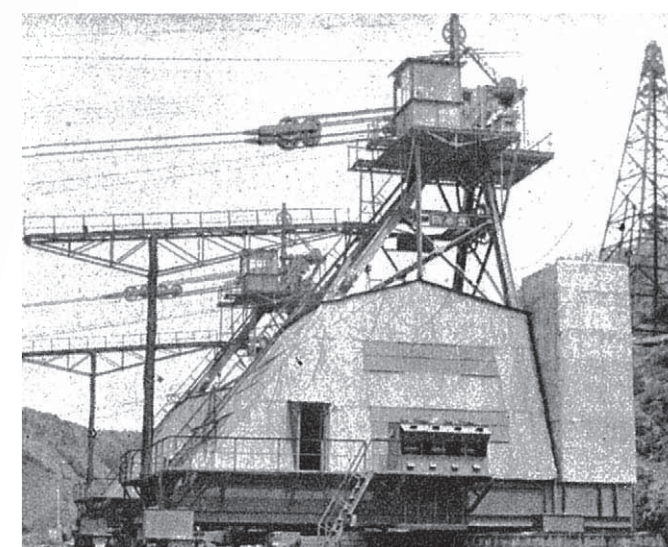
ケーブルクレーン



ベルトコンベア



バッチャープラント



ケーブルクレーン



# 70年間の歴史の中で6回の洪水調節を行うとともに 上流から流れ込む水の一部をダムに貯めこむことで、下流の被害を防ぐ。

## 洪水調節の実績

- 1954 昭和29年7月**  
建設省による洪水調節業務開始
- 1961 昭和36年6月**  
梅雨前線豪雨により最大流入量約5,000m<sup>3</sup>/sが発生、このうち約200m<sup>3</sup>/sを調節しました。
- 1964 昭和39年9月**  
台風20号により最大流入量約6,100m<sup>3</sup>/sが発生、このうち約1,300m<sup>3</sup>/sを調節しました。
- 1969 昭和44年8月**  
台風7号による出水で大量の流木が漂着
- 1972 昭和47年7月**  
梅雨前線豪雨により最大流入量約5,700m<sup>3</sup>/sが発生、このうち約1,000m<sup>3</sup>/sを調節しました。
- 1983 昭和58年9月**  
台風10号により過去最大の流入量約8,200m<sup>3</sup>/sが発生しました。
- 1993 平成5年7月**  
梅雨前線豪雨により約5,700m<sup>3</sup>の流木が漂着
- 1999 平成11年7月**  
梅雨前線豪雨により最大流入量約5,100m<sup>3</sup>/sが発生、このうち約400m<sup>3</sup>/sを調節しました。この調節によって、ダム下流3kmの地点では水位が50cm低下しました。
- 2021 令和3年8月**  
前線停滞による豪雨で最大流入量約5,460m<sup>3</sup>/sが発生、このうち約700m<sup>3</sup>/sを調節しました。この調節によって、ダム下流3kmの地点では水位が60cm低下しました。



梅雨前線豪雨(昭和47年7月)



梅雨前線豪雨(昭和58年9月)



ダムでせき止められる流木(昭和58年9月)



増水する木曾川八百津橋(平成11年6月)



前線停滞による豪雨(令和3年8月)



ダム放流(平成30年7月)



# 9.28豪雨災害

1983年(昭和58年)9月28日

## 台風10号による豪雨で、 木曾川には観測史上最大の流量がもたらされた

昭和58年9月27日から28日にかけて台風10号による豪雨が発生し、木曾川は計画高高水流量12,500m<sup>3</sup>/sを上回る記録的な出水となりました。このため、中流域の岐阜県美濃加茂市・可児市・八百津町・坂祝町に甚大な被害がもたらされました。特に、美濃加茂市では軒下に達するほどの深刻な浸水となった上、浸水面積も坂祝町と合わせて290haに達する広範囲なものとなりました。



美濃加茂市・可児市の浸水範囲



坂祝町の浸水範囲

## 丸山ダム始まって以来最大の流入量8,200m<sup>3</sup>/s が発生、初となる緊急放流

9.28豪雨災害によって、丸山ダムではダムへの流入量が計画流入量6,600m<sup>3</sup>/sを大きく上回り過去最大となる8,200m<sup>3</sup>/sとなりました。丸山ダムの洪水調節によって、ダム下流への急激な水位上昇を抑制することはできましたが、長時間の洪水によってダムの貯水位は洪水時最高水位(サーチャージ水位)を超えることが予測されました。このため、1956年(昭和31年)4月に開所して以来丸山ダム管理所では初となる緊急放流(異常洪水時防災操作)が行われました。



洪水吐きゲートの操作(昭和58年9月)



# 大規模多目的ダムとしては「日本最大級」となる 20.2メートルのかさ上げを実現する新丸山ダム。

## 昭和51年、 丸山ダム再開発事業の予備調査が開始

「丸山ダムのかさ上げ」は、木曾川水系の洪水調節機能を向上させることを目的として1970年（昭和45年）に構想されました。1976年（昭和51年）には建設省（現 国土交通省）による予備調査が開始され、1980年（昭和55年）4月に丸山ダム再開発事業として調査事務所が開設されました。

こうした中、木曾川流域に多大な災害をもたらした昭和58年の9.28豪雨によって、丸山ダム再開発事業は急テンポで進められることとなりました。1986年（昭和61年）4月には建設事業に着手、1988年（昭和63年）に新丸山ダムと名称が変更され、工事事務所が設置されました。2016年（平成28年）9月には転流工工事に着手、2021年（令和3年）本体工事着手、2025年（令和7年）3月にはコンクリート打設が始まるなど、工事が進んでいます。

## 新丸山ダムによって、 洪水調節機能が強化され、発電量が増量

新丸山ダムが完成すると、昭和58年の9.28豪雨災害で大きな被害のあった美濃加茂市・可児市付近の今渡地点で約2.7mの水位低下（新丸山ダム完成時の河道を想定）が見込まれ、河川氾濫による浸水被害の低減に寄与します。また、新丸山ダムによってダム湖水の水面が上昇し、丸山ダム発電所及び新丸山ダム発電所の最大出力は188,000kwから210,500 kwに増量します。



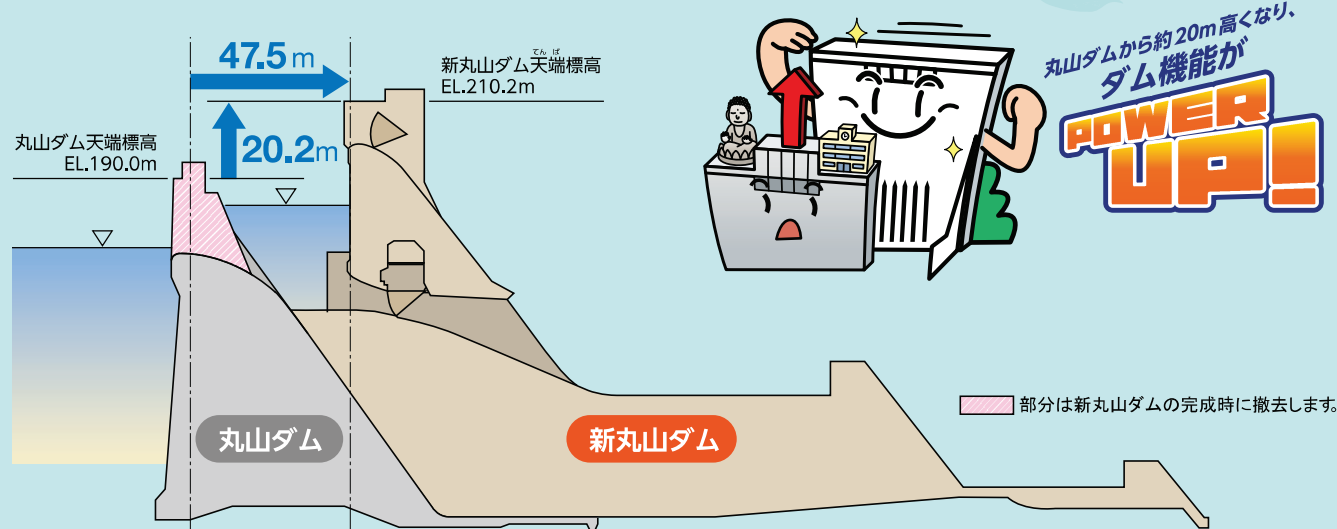
ダム本体コンクリート初打設（令和7月3日）



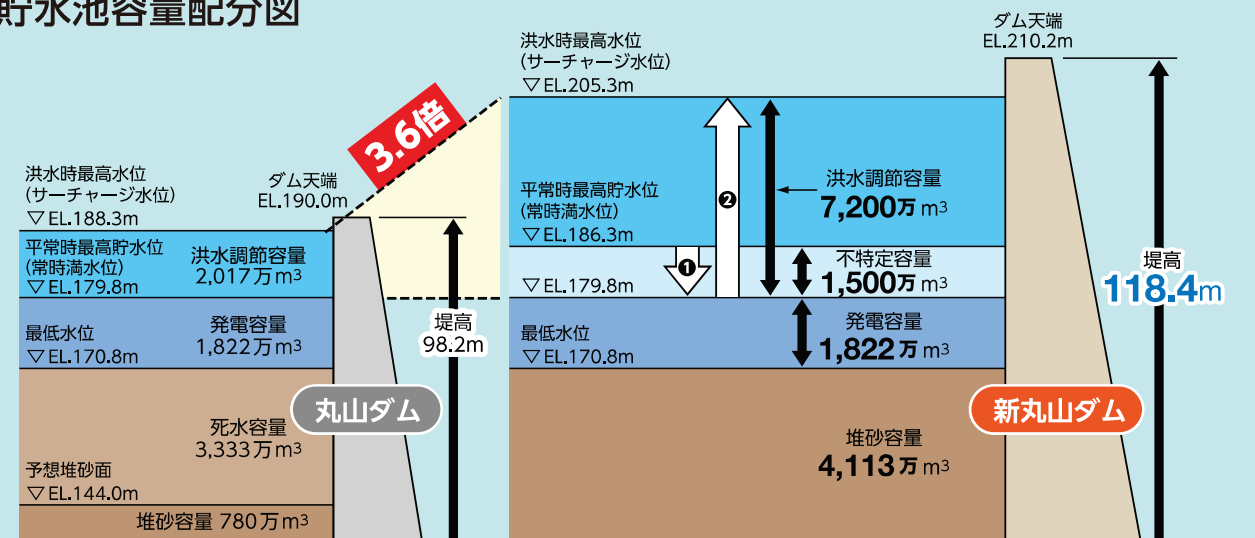
新丸山ダム予想図

## 丸山ダムから新丸山ダムへ

### ■ダム側面（イメージ）



### ■貯水池容量配分図

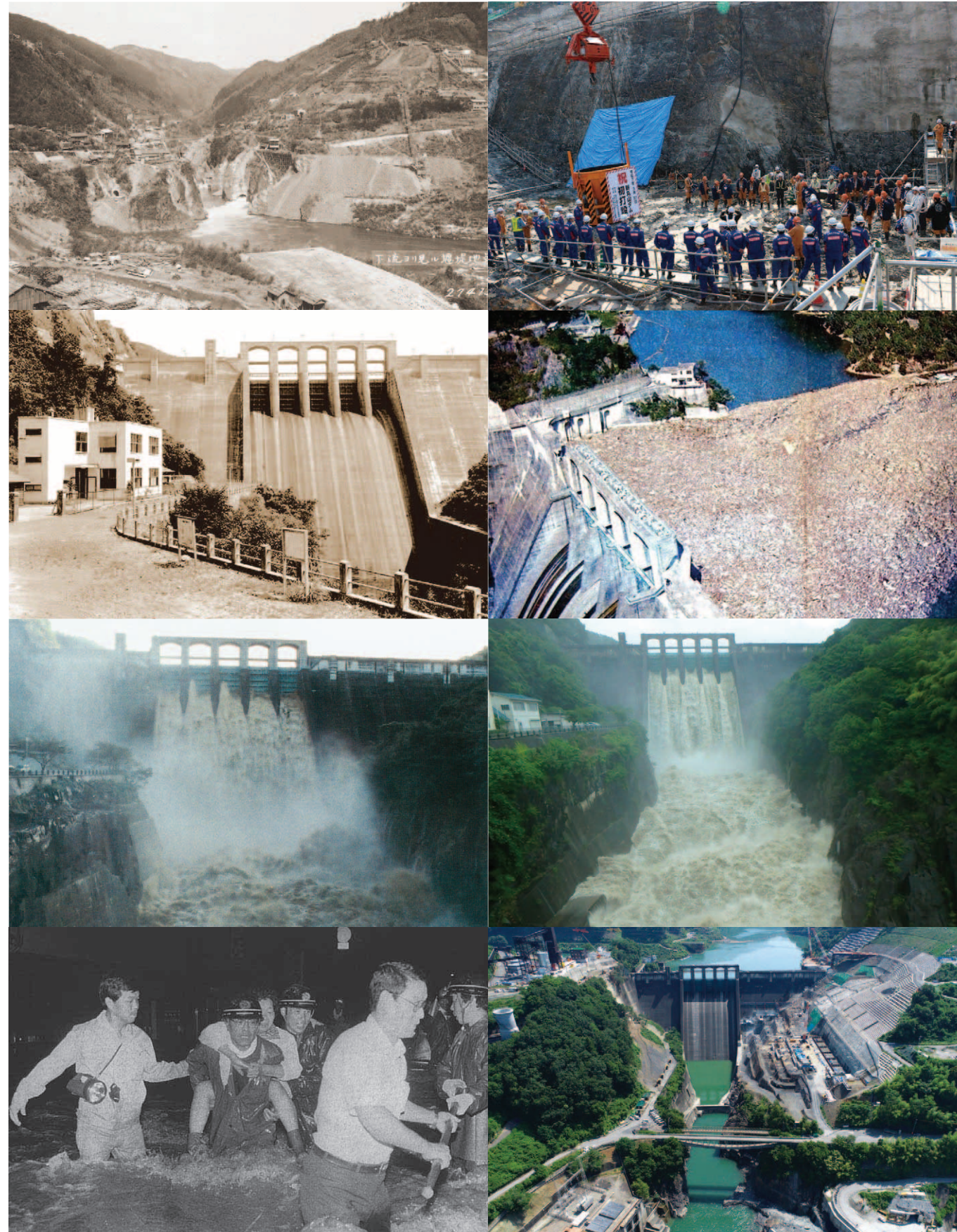


- ①: 洪水貯留（洪水調節）の準備をするため事前に水位を下げる操作（予備放流）
- ②: 洪水貯留（洪水調節）を行う操作



# 丸山ダムの歴史と社会の出来事

丸山ダムの歴史	社会の出来事
<b>1916</b> 大正5年 名古屋電灯が丸山ダム地点に水路式発電所の建設を計画、岐阜県に水利利用許可を申請	第1次世界大戦(1914~1918年)
<b>1933</b> 昭和8年 名古屋電灯を合併した大同電力が丸山ダムの建設計画を進めることを決定	3月 日本、国際連盟脱退
<b>1943</b> 昭和18年 10月 日本発送電により着工	太平洋戦争(1941~1945年)
<b>1944</b> 昭和19年 5月 太平洋戦争により工事中止	
<b>1951</b> 昭和26年 5月 関西電力に丸山ダムの事業継承 9月 本格的に工事着手	9月 サンフランシスコ平和条約締結
<b>1954</b> 昭和29年 4月 関西電力による発電業務開始 7月 建設省による洪水調節業務開始	3月 ビキニ環礁での米水爆実験で第五福竜丸被爆
<b>1956</b> 昭和31年 3月 管理棟設備の完成により、丸山ダムの全工事が完成	12月 国連総会、日本の加盟案を可決
<b>1961</b> 昭和36年 6月 梅雨前線豪雨により最大流入量約5,000m <sup>3</sup> /sが発生、このうち約200m <sup>3</sup> /sを調節	4月 ソ連、初の人工衛星船ヴォストーク1号の打上げに成功
<b>1964</b> 昭和39年 9月 台風20号により最大流入量約6,100m <sup>3</sup> /sが発生、このうち約1,300m <sup>3</sup> /sを調節	9月 名神高速道路 一宮・西宮間開通 10月 東海道新幹線開業 東京オリンピック開催
<b>1969</b> 昭和44年 8月 台風7号による出水で大量の流木が漂着	5月 東名高速道路全線開通 7月 アポロ11号月面着陸
<b>1971</b> 昭和46年 5月 新丸山発電所発電開始	6月 ワシントンで、沖縄返還協定調印
<b>1972</b> 昭和47年 7月 梅雨前線豪雨により最大流入量約5,700m <sup>3</sup> /sが発生、このうち約1,000m <sup>3</sup> /sを調節	9月 田中首相訪中、日中共同声明発表
<b>1974</b> 昭和49年 新丸山発電所の完成により、63年の歴史を持つ八百津発電所を閉鎖	11月 田中首相、辞意を表明



丸山ダムの歴史	社会の出来事
<b>1983</b> 昭和58年 9月 台風10号により過去最大の流入量約8,200m <sup>3</sup> /sが発生	4月 東京ディズニーランド開園
<b>1986</b> 昭和61年 4月 新丸山ダムかさ上げ建設事業着手	バブル景気 4月 ソ連のチェルノブイリ原子力発電所事故
<b>1993</b> 平成5年 7月 梅雨前線豪雨により約5,700m <sup>3</sup> の流木が漂着	6月 皇太子様(現在の天皇陛下) 雅子様ご成婚 8月 細川連立政権が誕生
<b>1994</b> 平成6年 4月 ダム放流制御装置の本格運用開始	記録的猛暑 水不足 9月 関西国際空港開港
<b>1999</b> 平成11年 7月 梅雨前線豪雨により最大流入量約5,100m <sup>3</sup> /sが発生、このうち約400m <sup>3</sup> /sを調節。この調節によって、ダム下流3kmの地点で水位が50cm低下	世界人口 60億人突破 5月 本州四国連絡道、尾道一今治ルート開通
<b>2016</b> 平成28年 3月 丸山ダム完成60周年 9月 新丸山ダム転流工事に着手	1月 マイナナンバーカード運用開始 4月 熊本地震
<b>2020</b> 令和2年 1月 丸山ダム管理所移転	新型コロナウイルス流行
<b>2021</b> 令和3年 3月 特定多目的ダム法に基づく特定多目的ダムとなる 4月 木曽川水系ダム統合管理事務所丸山ダム管理支所に組織変更 8月 前線停滞による豪雨で最大流入量約5,460m <sup>3</sup> /sが発生、このうち約700m <sup>3</sup> /sを調節。この調節によって、ダム下流3kmの地点で水位が60cm低下	7~8月 東京オリンピック・パラリンピック開催
<b>2022</b> 令和4年 3月 流入予測システムにAIを導入 木曽川本川を横断する流木処理施設(網場)を設置	2月 ロシアがウクライナに侵攻
<b>2025</b> 令和7年 3月 新丸山ダム本体コンクリート初打設 11月 新丸山ダム定礎式	4月 大阪・関西万博開幕 10月 日本初の女性総理大臣に高市 早苗氏
<b>2026</b> 令和8年 3月 丸山ダム完成70周年	2~3月 ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピック 3月 米国・イスラエルによるイラン攻撃で、最高指導者ハメネイ氏死亡



# これからも、流域の皆様への安全・安心な暮らしを見守り続けます。 丸山ダム70周年記念イベントを開催

## 70周年記念カード配布

●配布期間：2025年7月1日（火）～

7月より3弾に分けて70周年記念カードと専用台紙を先着順に配布しました。



## パネル展示

●実施期間：2025年7月～12月

丸山ダムの70年の歴史を振り返るパネル展示を木曾川流域の各市町10箇所にて開催しました。



## デジタルスタンプラリー

●実施期間：2025年10月10日（月）～2026年1月30日（金）

デジタル観光アプリ「SpotTour(スポットツアー)」を活用してデジタルスタンプラリーを実施しました。5箇所全てのスタンプを獲得された方には「オリジナルクリアファイル」をプレゼントしました。



## ダム見学

●開催日：2025年8月2日（土）、3日（日）  
2025年10月25日（土）、26日（日）

8月には丸山ダム堤体の見学に加え、巡視船に乗ってダム湖面の巡視体験をしました。10月には通常のダム見学のほかに普段は立ち入ることができない、丸山ダムの正面に架かる「小和沢橋」にご案内しました。またドローンによる記念撮影も行いました。



## やおつフォトコン2025

●募集期間：2025年4月～9月

丸山ダムとの思い出にまつわる写真及びコメントの募集を八百津町観光協会主催、丸山ダム管理支所共催「やおつフォトコン2025」にて募集しました。丸山ダム大賞には、「丸山ダムプライベート写真撮影ツアー」を贈呈しました。



## 流木アート

八百津町地域おこし協力隊のフラワーデザイナー 堀 祐次郎氏の手で装花をしていただき、作品は八百津町町制70周年式典等で展示されました。また木曾川高校生徒による丸山ダムの流木を使ったアート作品を瑞浪市総合文化センターで展示しました。



## 発行にあたって

丸山ダムは、昭和26年に着工し、昭和29年に洪水調節及び発電事業を開始した後、昭和31年3月に全工事が完成、昭和31年4月から建設省と関西電力(株)の共同施設兼用工作物として運用を開始し、令和8年3月で完成70年の節目を迎えました。また、令和3年度より新丸山ダム建設事業の本体着手に伴い、特定多目的ダムとして国土交通省の管理に移行しています。

治水では、管理開始以降6回の洪水調節を実施しており、近年では、丸山ダムへの最大流入量が管理開始以降4番目の洪水となった令和3年8月の大雨による出水において防災操作を実施しています。また、木曾川水系流域治水プロジェクトに基づき、事前放流による洪水調節可能容量の確保、丸山ダム下流における浸水想定区域図の公表を行う他、出水時の流木を捕捉し、下流河川への流木流出による洪水被害（橋梁部での閉塞による氾濫被害や橋梁流出）を防除しています。

発電では、丸山発電所・新丸山発電所（関西電力(株)）でそれぞれ最大出力141,000kW、63,700kWの発電を実施しています。新丸山ダム建設事業に伴い、2つの発電所で水路工作物の補強ならびに取り替え等の対策工事を実施し、至近10ヶ年平均発生電力量は751,983MWh（年間およそ250,000世帯分の電力量に相当）となります。CO<sub>2</sub>排出量で比較すると水力発電は石油火力発電の約1/67であることから、年間平均約55万t（平成27年～令和6年）のCO<sub>2</sub>削減に貢献しています。

水源地域は、八百津町を中心に豊かな自然と歴史、地場産業に恵まれた魅力ある地域であることから、地域間の交流の拡大、地域資源の掘り起こしと新しい切り口による交流の創出、住民が主体となって地域づくりに取り組む機運づくり等が求められています。丸山ダム管理支所では、ダム見学者向けに周遊いただくきっかけとなる仕組みとして地域振興ブースの設置、自然や防災に関するプロジェクト、流木を活用したアートイベントも実施しています。新丸山ダム水源地域協議会の一員として、ダムの魅力を高め、また利用者の利便性や安全性を向上させることを企図して周辺施設の整備等に協力してまいります。

前述の事業経緯、治水、発電の他にも、70周年で実施してきたイベント、ダム管理業務、丸山ダムが担ってきた役割とあゆみを本書にまとめました。

末筆ではございますが、ダム建設及び管理にご尽力いただいた皆様に感謝するとともに、今後の治水事業並びに地域活性化に貢献するための資料として、本書がお役に立つことを願っております。

令和8年3月  
木曾川水系ダム統合管理事務所長 今津 崇



### 丸山ダム70周年記念誌

令和8年3月 発行

編集・発行  
国土交通省中部地方整備局  
木曾川水系ダム統合管理事務所 丸山ダム管理支所  
岐阜県美濃加茂郡八百津町八百津1276-2  
TEL.(0574)43-1108  
FAX.(0574)43-2170